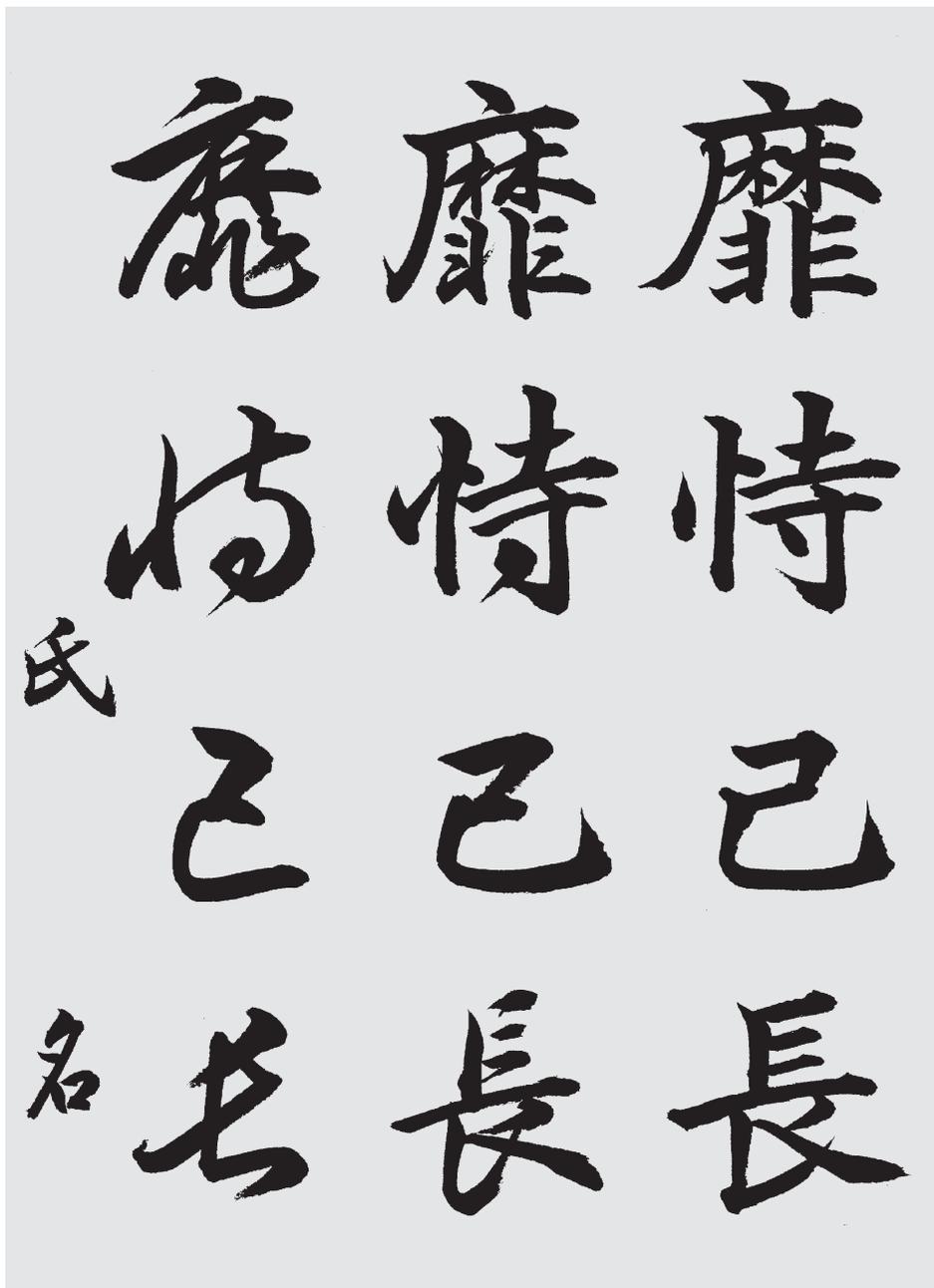


三体千字文を書く (46)

締切り 十月二十四日 (必着)



奥村憲照先生書

回作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判 (二五七mm×一八二mm) 以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 B半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。
- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六

(一九八二)年四月のことです。

◆「三体千字文」課題からスタートし、憲照先生の穩健中正で気品のある手本が好評を博しました。

◆短期特別課題として、平成二十四年一月から二年間と平成二十八年の一年間学びましたが、今回はその続きです。

◆原点に戻って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

罔談彼短

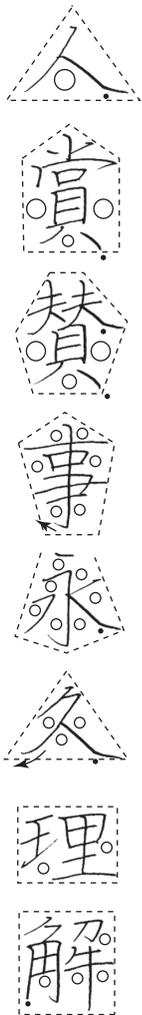
靡恃己長

人の短所過失は言うことなく、自れの長所、得意とするところは人に自慢することなく、

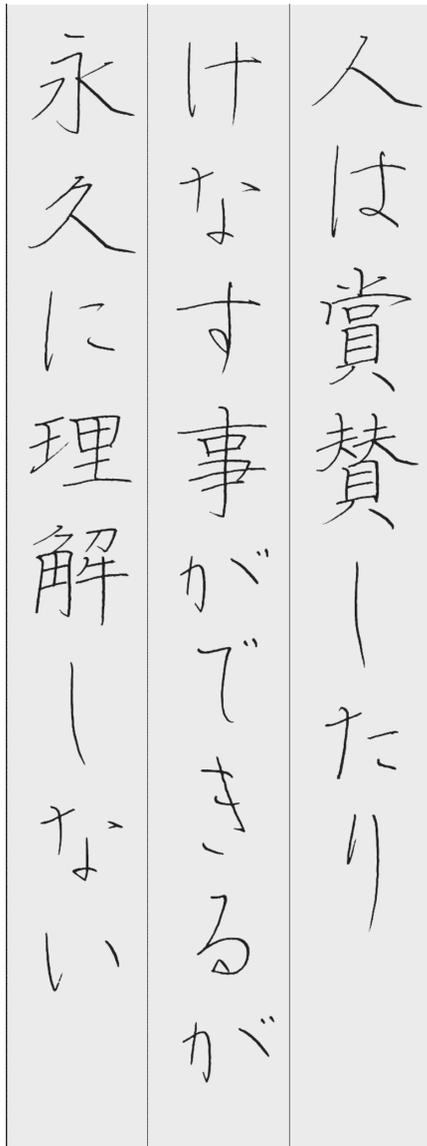
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



●印の波法をしっかりと
▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

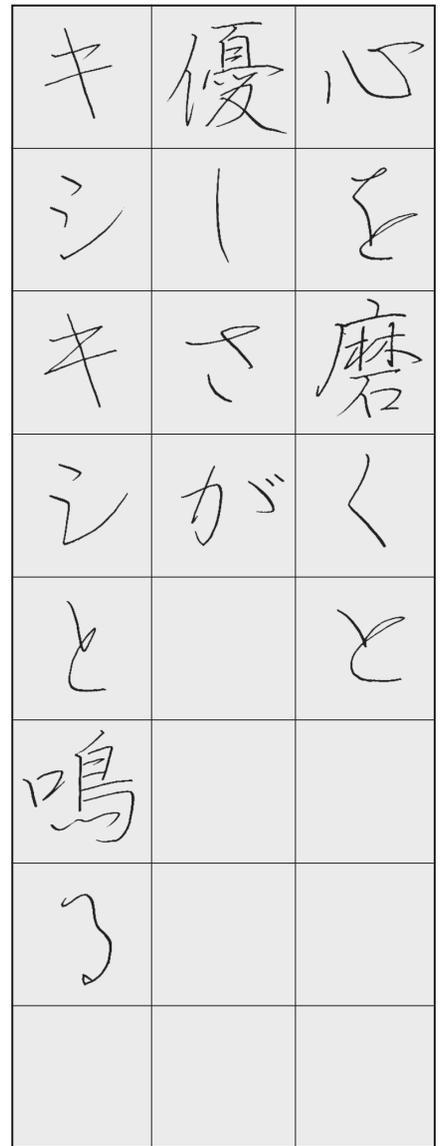
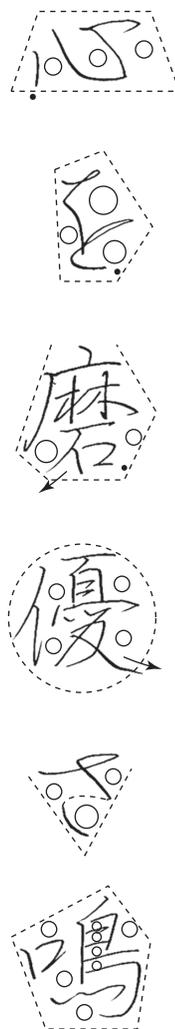


新井龍峰書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



古田瑞苑書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆11月課題予告(行草または草書)
幸せを願うなら
まず学べ苦しむ術を
ツルゲーネフ
▼教範・書範||行書
▼師範||楷書

★人は…(書体||楷書)
ニイチエ(一八四四〜一九〇〇)
哲学者
ほめられるとうれしいのが一般的心理です。人をほめ、関係を良くしようという気持ちもあります。
一方、けなすことも目立ちます。人をけなし自分を高めたいという意地の悪さは、残念ながらどんな人にもひそんでいます。
ほめたりけなしたり、他人に対して人は忙しい生き物ですが、それは相手を本当に理解しているのか考えると、真実は少しもわからないでそうしているのです。

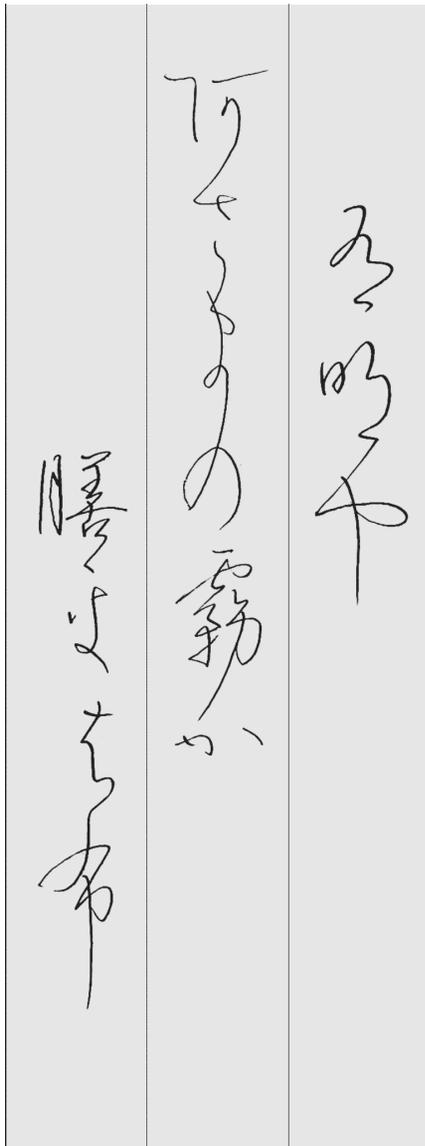
◆11月課題予告(楷書)
一つあれば事足る
鍋の米をとぐ
山頭火

★心を磨くと…(書体||行書)
西岡光秋(一九三四〜)
作家・評論家
自分自身の生き方を張りのあるものとして持続するには、心を磨き続けることが大切です。心を磨くことは、まわりの人や動物、物に対しても優しさを示すこととなります。それを怠ると、生活は単調なものとなり、味気なく進歩が見られなくなります。一日のほんの少しの時間でも、心を磨くことをすすめます。その時、心の片隅にそっと息をひそめていた優しさが目覚め、キシキシと鳴る音が聞こえるのです。

準初段から六段まで

新入から1級まで

有明や浅間阿さまの霧が膳ふをはふ



田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

有明や浅間阿さまの霧きりが膳ふをはふ



田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

有明ありあけや浅間あさまの霧きりが膳ふをはふ

(小林一茶)

〔句解〕有明の月がまだ空に淡く消え残っている夜明け、早立ちの膳につく。浅間の山裾やますそからわく霧が、あけ放した窓から煙のように舞いこんできて、膳のあたりに低くまといつく。これから旅仕度を整えて、さわやかな気分で旅宿を出ることだ。

〔鑑賞〕一茶にしては珍しく本格的な叙景句で、〈有明〉といて時刻を表し、〈浅間〉で背景を、〈膳〉で場所を示し、〈はふ〉という一語で情景を躍如とさせているところは、寸分も隙もない叙法である。

〔古筆参考〕

阿あ阿阿阿阿阿
可かくくくくく
乎を字字字字字
者は者者者者者
布ふ布布布布布

〔解説〕〈月〉の行書の、三、四角目を、一つの作品の中で少しずつ変化させて書きましよう。

◆11月課題予告

つり鐘かねの帯たてのところが洪ふかりき

(正岡子規)

締切り 10月24日(必着)

美しい夕焼け空を眺めながら、
しみじみと秋を感じるこの頃、
いかがお過ごしですか。当方は
書道展に出品する作品づくりに
苦心している最中。アドバイスを
いただけたらと思います。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題はがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

美しい夕焼け空を眺めながら、
しみじみと秋を感じるこの頃、
いかがお過ごしですか。当方は
書道展に出品する作品づくりに
苦心している最中。アドバイスを
いただけたらと思います。

横 書 き 課 題

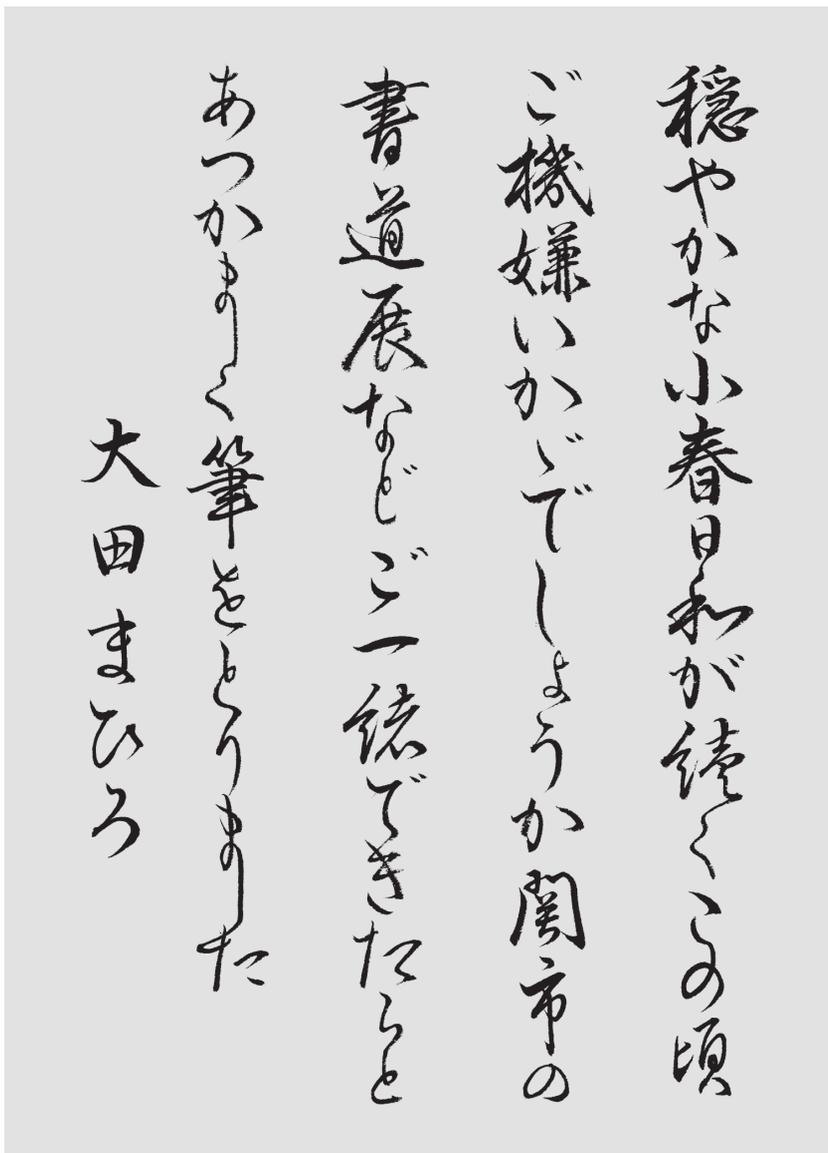
最大限に登山を楽しむためには、
完全なる準備と技術が必要である。

茨城県土浦市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

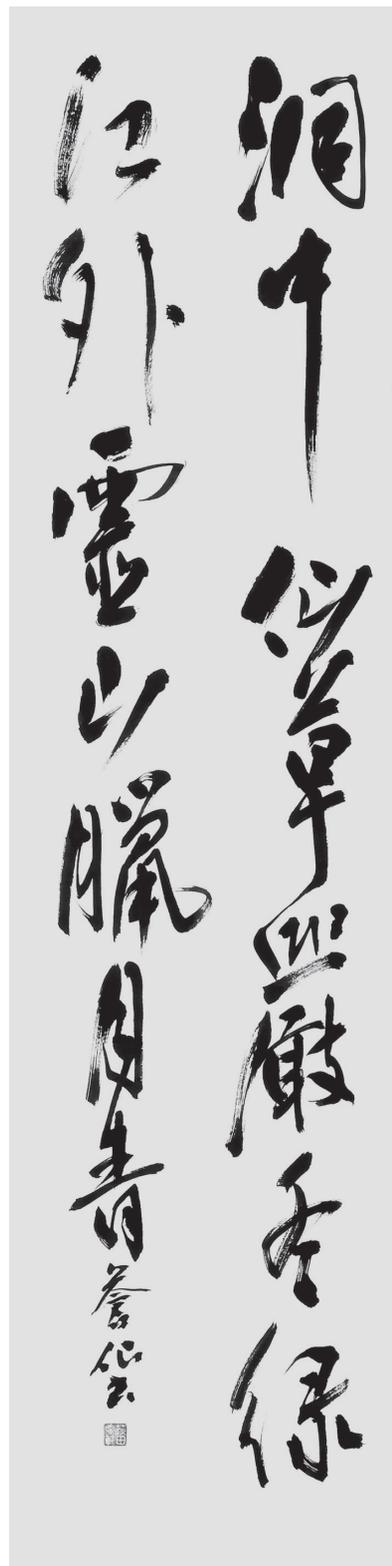
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

書 香 梅 藤 伊



締切り 十月二十四日 (必着) 半切 (一三六cm × 三五cm)

荻田蒼仙先生書

洞中仙草 嚴冬 緑

江外靈山 臘月 青

〔大意〕 仙人の住む洞中は厳しい冬でも青く、川辺の靈山も冬枯れもせず青い。初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕

得てして、自分の書きぶりに何の疑問を持たないまま、書く枚数を重ねます。がんばった！これで納得します。或いは自分の能力はこんなもの……と開き直ります。ところが上達には、ウマイ、エライ方の書きぶりを見る事が上達の妙薬です。書は線であるとすれば、価値ある美しい線は、この見ることが妙薬です。

穏やかな小春日和が続くこの頃

ご機嫌いかゞでしようか関市の

書道展など一緒できたらと

あつかましく筆をとりました

(ご自分の氏名)

・印で墨つきしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

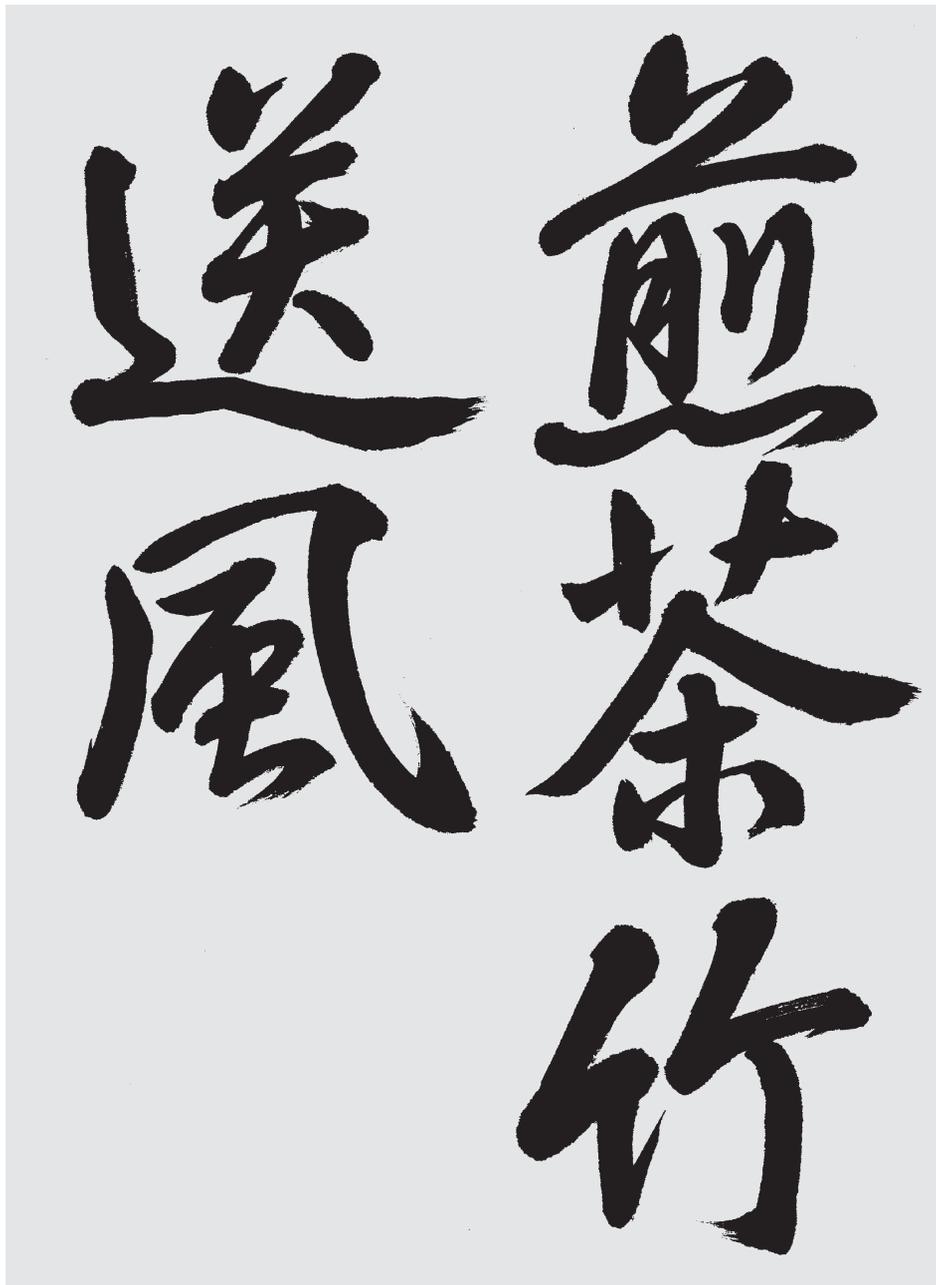
■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。

■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(行書)

清し水翠芳書



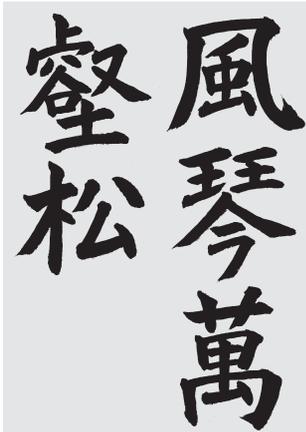
煎茶竹送風
ちやをいれだけかせをおくる

〔大意〕茶を煎ずれば折から竹はさらさらと風をこなたに送りくる。

〔解説〕



◆11月課題予告(楷書)



準初段から師範まで

須田一葉臨



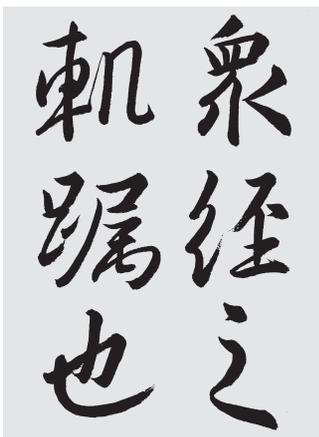
絲綸武徳九季年

〔出典〕孔子廟堂碑（六二六～六三三）
 〔筆者〕虞世南（五五八～六三八）
 〔読み〕（爰に）糸綸を（発す。）武徳九年

〔解説〕

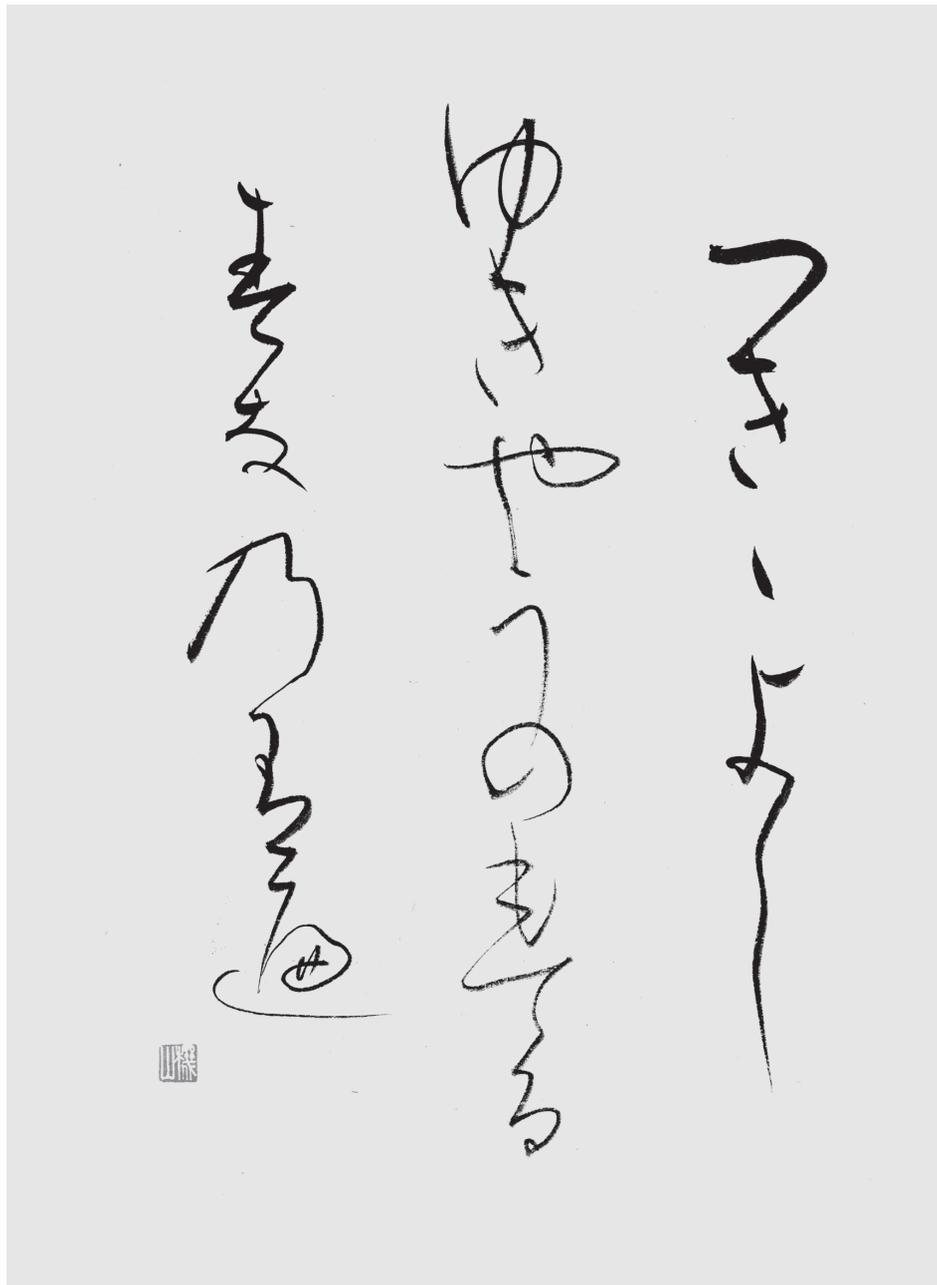


◆11月課題予告
 ※文献によって字体が異なる場合があります。



新入から1級まで

浅井機山先生書



月清し遊行のもてる砂の上

春奈乃有通
松尾芭蕉

〔句意〕

元禄二年敦賀気比の明神での吟。今宵の名月の清光が、遊行上人の運ばれた白砂の上に照り輝いていることだ、の意。神域の清浄さ、神々しさを詠んだ句。

〔古筆参考〕

春^す 春 春 春 春

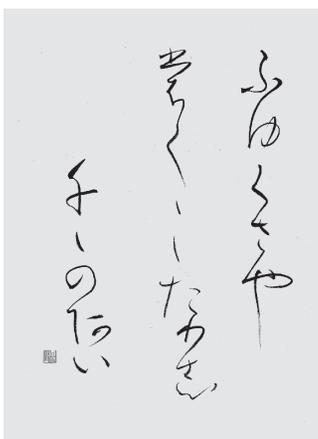
奈^な 奈 奈 奈 奈

乃^の 乃 乃 乃 乃

有^う 有 有 有 有

遍^へ 遍 遍 遍 遍

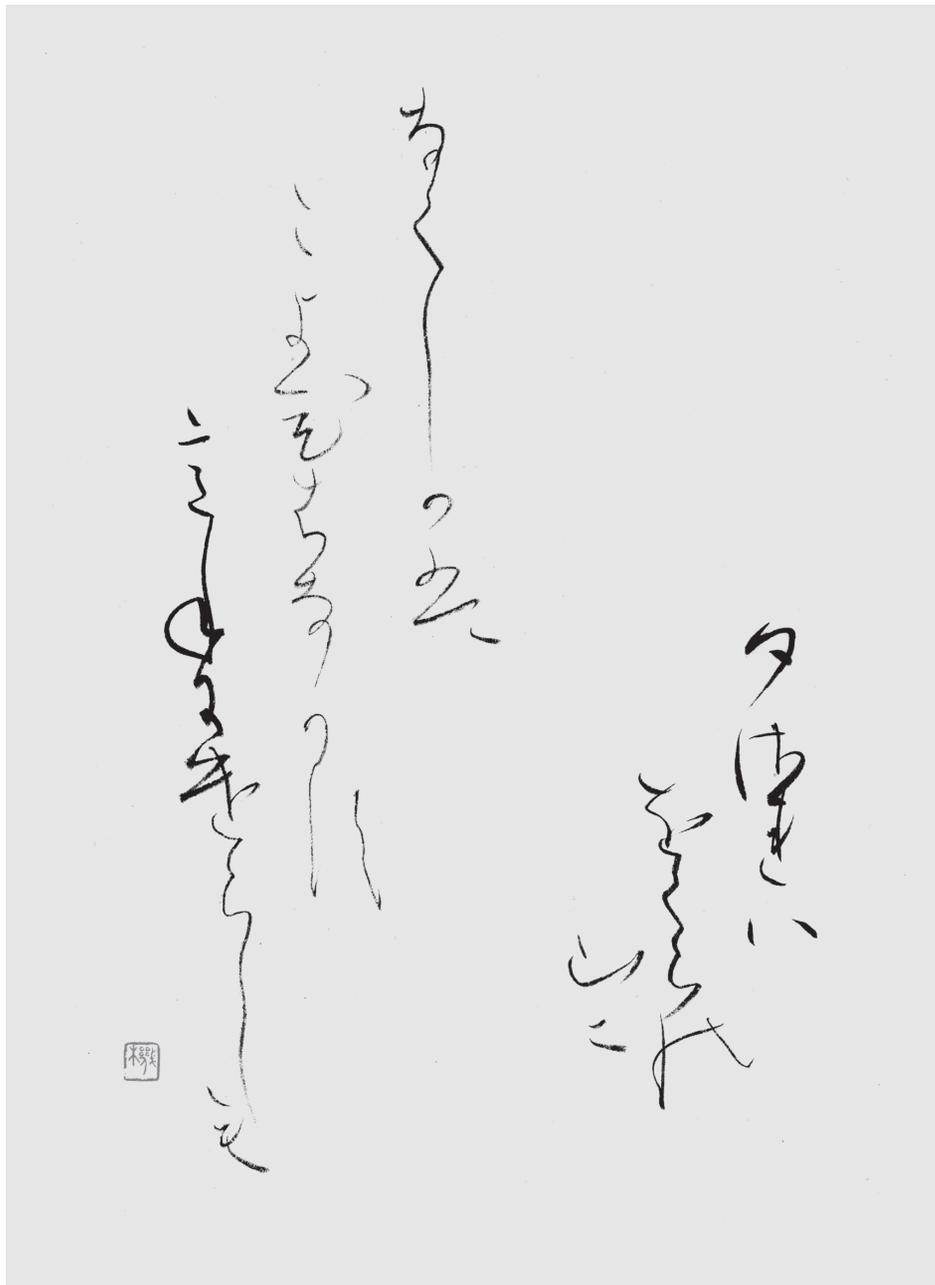
◆11月課題予告



冬草や黙々たりし父の愛

準初段から師範まで

浅井機山先生書



夕佐連八さればせくら能小倉二奈の山し可に鳴鹿く鹿は

今夜こよ飛者奈可須意年尔遣は鳴舒明天皇かずじよめいてんのう新宿毛にけらしも

舒明天皇

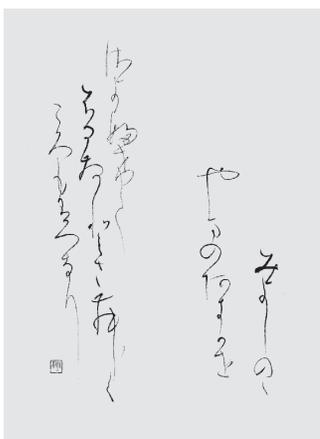
〔歌意〕

夕べになるといつも小倉の山でも悲しげに鳴く鹿は、今夜は鳴かない。寝てしまったのであろうよ。

〔古筆参考〕

佐さ 佐さ 佐さ 佐さ 佐さ
 能の 能の 能の 能の 能の
 盤は 盤は 盤は 盤は 盤は
 飛ひ 飛ひ 飛ひ 飛ひ 飛ひ
 意い 意い 意い 意い 意い
 遣け 遣け 遣け 遣け 遣け

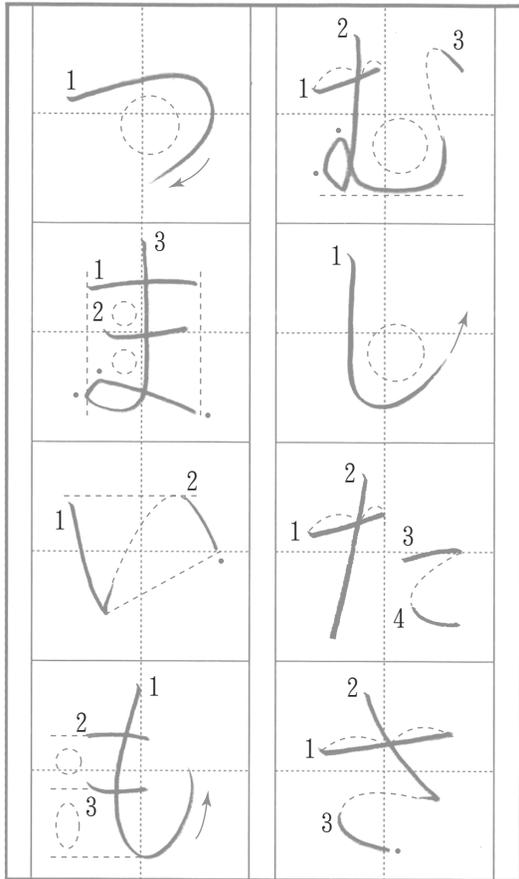
◆11月課題予告



み吉野よしのの山やまの秋風あきかぜさ夜よふけて

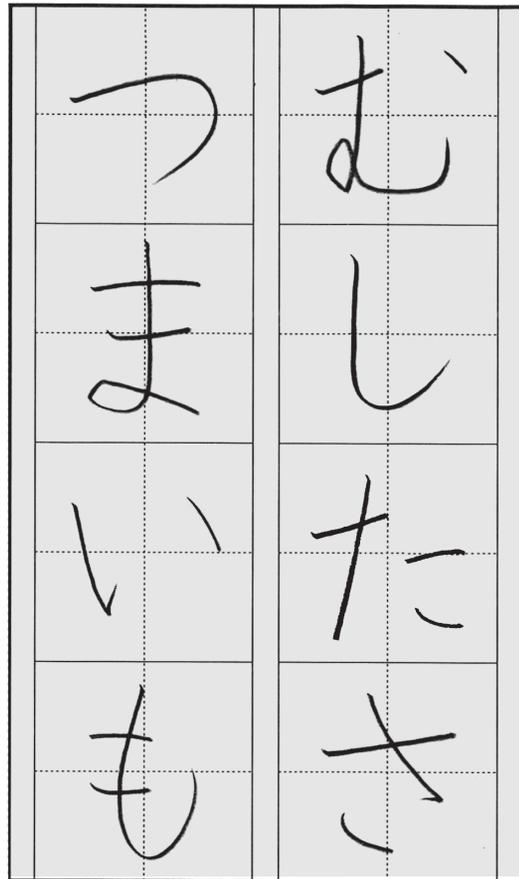
故里ふるさとさむく衣ころもうつなり

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



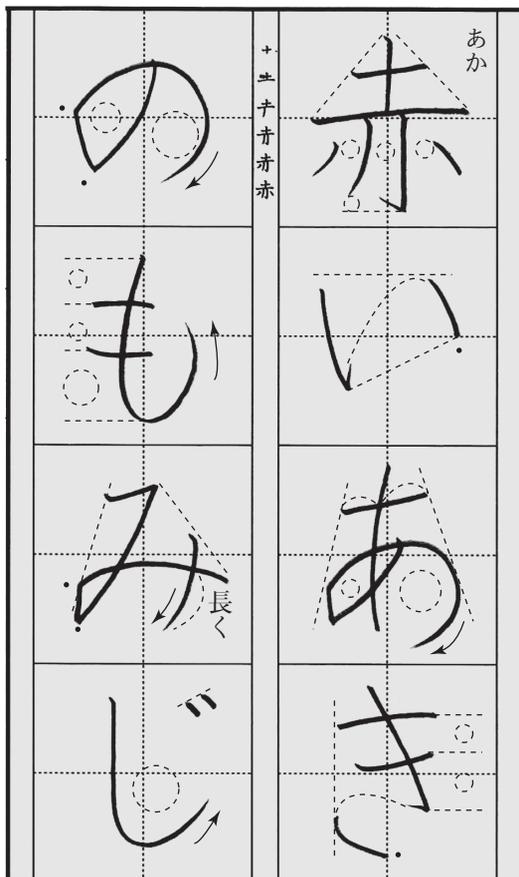
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

小二年

じ	そ	姉
く	ろ	さ
つ	い	ん
二	の	と
足	同	お

準初段以上

※姉さん＝単語としてこのように読みます。

新入～1級

く	姉 あね
つ	と
二	同 おな
足 ソク	じ

自由(黒色にかきこむ)

小三年

め	と	屋
る	星	上
秋	を	か
の	な	ら
空	が	月

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入～1級

月 ツキ	屋 オク
と	上 ジョウ
星 ホシ	か
を	ら

〈用具 自由 (黒色に限る)〉

ニ 开 刑 型 型	型	かた 一丁下正正	正	セイ
	に	一 方 方	方	ホウ
	入	一 ニ 开 刑 刑	形	ケイ
	れ		の	

新入 1級

入	方	チ
れ	形	ヨ
固	の	コ
め	型	を
る	に	正

小 四 年

準初段以上

小 四 年 以 上
岡 嶋 桂 川 書

ロ 味 味 味	味	ミ	英	エイ
	持	も(つ)	会	カイ
	教	キヨウ	話	ワ
	室	シツ	興	キヨウ

解説 (よく見て習いましょう)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

室	味	英
に	を	会
通	持	話
う	ち	に
よ	教	興

小 五 年

(全員)

〈用具 自由(黒色に限る)〉

成	文
多	化
数	祭
劇	賛

解説(よく見て習いましょう)

に	成	文
決	多	化
ま	数	祭
っ	て	は
た	劇	賛

小六年 (全頁)

し	生	山
い	息	岳
動	す	地
植	る	帯
物	珍	に

中二・三年 (行書)

理	を	取
し	詳	材
記	し	の
事	く	資
に	整	料

中一年 (行書)

▼小三年以下の課題 なが い や え こ 長 井 八重子 書



しめきり 10月24日 (必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 よこ やま ゆう れん 横 山 友 漣 書

※お母さんかあ＝単語としてこのように読みます。

◎お手本はえんぴつ使用

ケ	か	米 <small>こめ</small>	お	ハ
ー	ぼ	こ	母 <small>かあ</small>	ロ
キ	ち	を	さん	ウ
を	や	使 <small>つか</small>	ん	イ
作 <small>つく</small>	の	っ	と	ン
り		て		の
ま				日
す				に



鑑 <small>かん</small>	家 <small>か</small>	開 <small>かい</small>	文 <small>ぶん</small>	秋 <small>あき</small>
賞 <small>しょう</small>	族 <small>ぞく</small>	催 <small>さい</small>	化 <small>か</small>	晴 <small>ば</small>
に	と	中 <small>ちゆう</small>	セ	れ
行 <small>い</small>		の	ン	の
き		美 <small>び</small>	タ	休 <small>きゆう</small>
ま		術 <small>じゆつ</small>	ー	日 <small>じつ</small>
す		展 <small>てん</small>	で	に
		へ		

◎お手本はつけペン使用



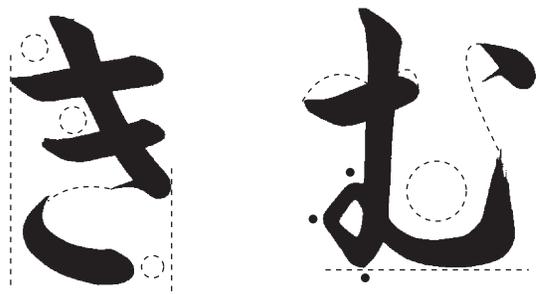
◇作品の出し方

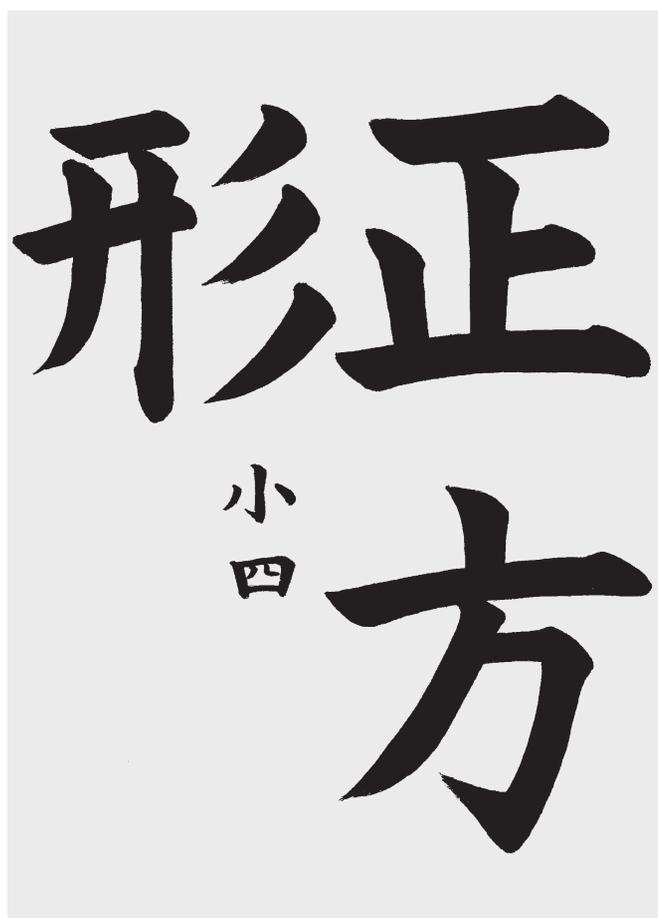
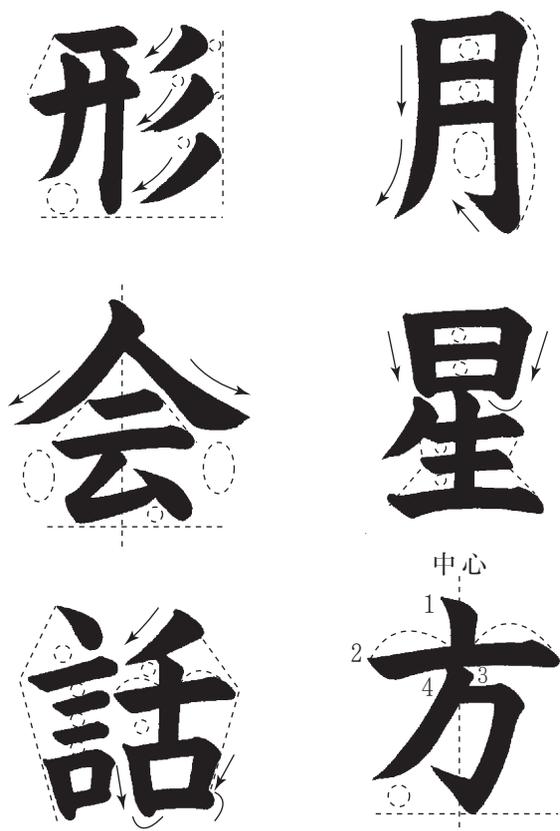
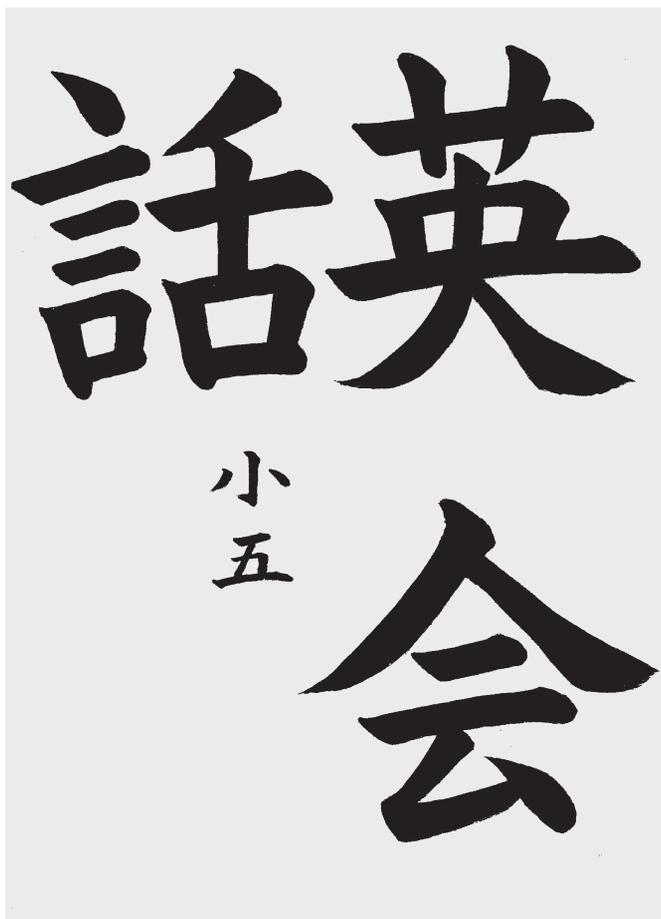
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





幼年〜小二年
酒井智仔書





小三〜小五年
水野碧友書

中
二
三

地山
帯岳

小
六

多賛
数成

小六〜中二・三年

永谷恵子書

料

はらう

岳

帯

賛

成

資

中
二

資取
料材

※行書はリズムよく筆を運ぶ事が大切です。